

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871200329
法人名	社会福祉法人 亀天会
事業所名	グループホーム鶴翠
所在地	愛媛県西条市大野284番地2
自己評価作成日	平成 22 年 11 月 3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者1人1人のケアについて、ユニット会等で話し合い、ケアの質の向上を図っている。
入居者の方の思いに寄り添いながら生活支援を行っている。
ご近所へホーム誌を配布したり、イベント案内を行う事で、地域の方と入居者の方が日常的に交流ができる機会を設けている。
地域の方にもボランティアに来て頂いており、今後も地域のボランティアの幅を広げていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者や職員は、利用者を人生の先輩として尊敬し、穏やかに寄り添うことを基本姿勢として支援に取り組んでいる。常に問題意識を持ち、最善の方法を全職員で模索しながら日々のケアを行っている。同法人には多くの施設や事業所があり、特に同敷地内にあるケアハウスや隣接する同法人施設とは連携を密にとれる体制が築かれており、地域との交流や地域貢献も行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム鶴翠

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)

氏名 佐伯 敏子

評価完了日 平成22年 11月 3日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 事業所の理念は全職員が共有できるよう入職時オリエンテーションや職員会などで具体的に伝え、個人個人のケアの実践に努めている。</p> <p>(外部評価) 職員は機会あるごとに理念を実践するために振り返りを行い、常に利用者本位に考え問題意識を持ちながら日々のケアに取り組んでいる。また、管理者は職員が利用者の側でより良いケアが行えるよう助言等を行っている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 散歩等の外出時には近所の方とあいさつや会話を行っている。スーパーへ買い物に出かけたり、小学校や地域交流センターへ行き、地域の人と交流を図っている。ホーム誌や行事の案内を近所へ配布し、日常的に交流が図れるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 日常的な散歩や買い物等の外出、小学校との交流や地域資源の活用は継続して行われている。また、近隣住民へホーム誌を持参し、顔を合わせて話す機会を作る等、ホームの事をより身近に感じてもらおうと取り組んでいる。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域運営推進会議を開催し、地域の方々に情報発信をしている。民生委員の方に出席してもらい、認知症の方への理解や支援の方法を伝えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2カ月に1度地域運営推進会議を開催し報告や話し合いをおこなっている。入居者の方の参加もあり意見を聞きサービスの向上に向けて取り組んでいる。	
			(外部評価) 当初はホーム側からの報告が主となっていたが、参加者にホームのことを理解してもらえるように議題や内容を工夫している。回を重ねるごとに意見交換が活発になっている。	従来からの参加者に加え、議題や内容に応じた参加者を多方面から募り、多角的な意見をもらい今以上に活発な意見交換の場となるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 地域運営推進会議にて報告し協力関係を築いている。必要時は関係機関に行き担当者と話をしている。	
			(外部評価) 地域包括支援センターの職員には、毎回運営推進会議に参加してもらい意見交換や情報交換をする等、連携は密に行っている。介護保険課にも随時出向き、情報交換や助言をもらう等のよい関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ユニット会、職員会等で全職員が身体拘束について話し合い、身体拘束をしないケアを実践している。	
			(外部評価) 職員は、ユニット会や勉強会で身体拘束について学びよく理解している。日々の支援の中で言葉使いも含め、気がついたことは職員同士で話し合っている。玄関の施錠については、交通量の多い道路に面しているため家族の意向も踏まえ、職員で話し合った結果、安全を優先し施錠している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ユニット会、職員会等で全職員が虐待について話し合いをおこなっている。日常業務の中で虐待が見過ごされる事のないよう注意を払い防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 入居者の方で成年後見人制度を利用されている方がいる。経過は全職員が把握し制度について勉強し理解を深めている。新入職員にも資料で説明し理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分な説明と話し合いをおこない疑問点がないようにしている。退去時にはその後の事も視野にいれご家族に不安がないよう話し合いをおこない対応に努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 地域運営推進会議にて意見交換ができる機会を設けている。面会時には居室や相談室にて意見を聞かせて頂いている。意見箱の設置をしたり、介護相談員の訪問を定期的を受け、入居者の方の要望や意見を聞かせて頂くように努めている。	
			(外部評価) 毎月介護相談員を受け入れ、意見交換を行っている。また、家族に日常の生活の様子が分かる便りを毎月届けている。家族の面会時には必ず声かけし、話しを聞くようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ユニット会や職員会等と、気づいた時には相談室等で意見や提案を聞く機会を設けている。 (外部評価) 管理者は話しやすい環境を作ることを心がけ、職員と色々な話をするようにしている。ユニット会や職員会でも意見や提案を言う機会があり、新人職員の提案が実現した例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員個々の努力等を把握している。各自が向上心ややりがいをもって働けるよう、役割や担当を決め職場環境の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 個別能力や介護経験の期間などを考慮し研修している。ホーム内での勉強会や外部研修参加の機会を設けている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 勉強会や他事業所との交流の機会を設けネットワークづくりや、サービスの質の向上が図れるように努めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面接にて生活状況を把握し、不安、要望を聞き関係づくりに努めている。また、言葉にならない訴えも把握できるように表情を汲み取るよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面接にて生活状況を把握している。ご家族の困っている事、不安や要望、意見を聞きとり、信頼関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 状況や状態を把握し何が必要とされている支援かを考え対応に努めている。「その時」必要と判断されたサービスへは、ケアマネージャーや他事業所の相談員の方と連携を図り対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 昔から知っている知恵を教えていただくことがある。職員は介護する側という一方的な立場に立たず、お互いが協働しながら和やかな生活ができるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 入居者の日々の様子を随時家族に伝え情報の共有に努めている。家族の思いを聞き取り、本人を支えていく為の協力関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域で暮らす知人や友人等の訪問があり、継続的な交流が保てるように働きかけをしている。本人の希望に忠じて、家族の協力を得ながらお墓参りや美容室などへの外出ができるように支援に努めている。 (外部評価) 家族と一緒に美容室や法事に出掛けたり、正月等に外泊できるように支援している。利用者が生活していた地域の行事に参加する等、利用者が今まで培ってきた馴染みの人や場との関係継続ができるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 本人の性格も考慮しながらひとりひとりが孤立せず、関わり合い、支え合えるような生活が送れるように支援に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 可能な限り、情報提供を行い、相談や支援に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 声かけや会話の中で、ご本人にとって何が必要なのか、何が望みなのかを考え聞き取り、思いや意向を把握するよう努めている。 (外部評価) 職員はゆったりと利用者向き合いながら得た情報から、利用者の思いや意向を把握するよう努めている。得た情報は申し送りやユニット会等で話し合い職員全員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 生活歴等を本人、家族の方に聞き取り、日々の生活に活かしている。入居前にサービスの利用がある場合は、サービス利用時の情報を収集している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 共に生活する中で、一人一人の変化に気づき、生活リズムを把握する事で、その全体の把握に努めている。申し送りや日々の記録を活用し総合的な把握をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月のユニット会で日々の生活の中での関わりや感じたこと、課題になっている事を話し合いそれぞれの意見やアイデアを出し合っている。話し合いの内容は、家族と情報交換し介護計画に反映させている。	
			(外部評価) 利用者の意向を日々の関わりの中から汲み取り、家族の意見を取り入れながら職員間で情報を共有し、検討を重ね介護計画を作成している。介護計画の見直しは6か月または、状態の変化に合わせて随時行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子は、個別生活記録へ記入している。申し送りノートを活用し、気づきや変化を職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 状態や状況の変化に応じて多機能性を発揮できるよう努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の行事や小学校・図書館等の利用をしている。地域運営推進会議へは、消防署の方にも来て頂き、安全な暮らしへの支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 協力医療機関の診察と本人・家族の要望に応じて適切 な医療を受けられるように支援している。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医を受診してお り、家族に受診の付き添いをしてもらうこともある。 その際には経過を記した文書を持参してもらって いる。協力医療機関からの往診もあり利用者の健康管理 には、十分配慮されている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 看護師が職員として勤務している。日常の健康管理を 行い、相談出来るように支援している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 主治医とソーシャルワーカーの方と情報交換を行い、 家族の方と相談しながら、早期に退院できるよう努め ている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 重度化した時の対応は家族の方と話し合いをしてい る。</p> <p>(外部評価) 食事の摂取量や身体状況の段階的な変化や、それに 応じた方針や対応方法などが記載された「看取り指針」 が定められている。状況に応じて家族とも話し合いを 行うようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事故発生時のマニュアルを作成している。消防署員の指導のもと、人工呼吸の訓練等を行い実践力を身に付けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回、消防署の指示を得て、避難訓練を行い、避難経路の確認、消火器の使い方等の訓練を行っている。また、自治会から地区の自主防災組織表を頂いており、災害時は協力が得られるよう、地域運営推進会議の場で働きかけている。 (外部評価) 消防署の協力を得て、同敷地内のケアハウスと合同で夜間想定等の訓練を行い、隣接する同法人の施設からの応援体制も整備している。法人施設のダイルームを、災害時に地域に開放する等、運営推進会議でも話し合っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者1人1人の人格を尊重し接している。また、利用者に対して誇りやプライバシーを損ねない言葉で対応している。 (外部評価) 管理者や職員は、利用者は人生の先輩であることを常に意識してケアに努めている。排泄時等のプライバシーの確保や配慮、声かけの言葉使い等を職員同志で注意し合うよう徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者に合わせて声かけを行い、本人の思いが自然に出せるよう心がけている。意志表示が困難な方には、表情を汲み取りながら、思いや考えを自ら出せるよう働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その日、その時の利用者の気持ちを尊重した支援をしている。買い物や散歩等1人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 季節に合った服、衣類を用意している。美容については、家族や本人の要望を聞き、対応している。着替えは、利用者の意向を取り入れている。見守りや支援が必要な時は介助している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の方と一緒に片付けや食事の準備を行っている。また、利用者の方と同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるよう雰囲気づくりも大切にしている。	
			(外部評価) 利用者の好みや希望を聞き取りをし、法人施設の栄養士が献立を立てている。調理は無理のない範囲で利用者のできることを手伝ってもらおうようにしている。食事は会話を楽しみながら美味しく食べられるように和やかな雰囲気づくりがされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 1人1人の食事の摂取状況を毎日、暮らしの状況表に記録し、情報を共有している。一人ひとりの状態や力を把握して支援に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアの声かけを行い、見守り・一部介助等状況に応じ対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個人の排泄パターンが分かるようにチェック表を作成し、トイレ誘導を行う事で、トイレでの排泄を促している。	
			(外部評価) 排泄チェック表を活用し排泄リズムを把握したり、表情や動作で察知し声かけ、誘導を行っている。歩行不安定な利用者には職員が2人体制で支援する等安全面にも配慮し、日中は全員トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 個人の排泄状態をチェック表にて把握・確認をしながら水分補給や体操・散歩、家事活動等体を動かす機会を設け、自然排便ができるよう取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴したい日に入浴して頂いている。また、入浴を拒む利用者に対しては、声かけを行い、入る気分になられた時に入って頂いたり、足浴で対応している。	
			(外部評価) 希望により毎日入浴することも可能である。利用者同士仲よく入浴することもある。また、入浴を拒否する利用者には声かけやタイミングを見ながら、入浴が楽しみとなるよう支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。また、寝付けない時には、温かい飲み物を飲みながら談話を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の管理は看護師が行っている。薬の用法や用量は個別の薬表を確認し、理解している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴や本人の力を活かした役割が行えるよう支援している。又、季節行事や楽しみごとを取り入れ、気分転換の支援をしている。支援の後は、感謝の言葉を伝えたり、楽しかった気持ちや思いを共有している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者の気分や希望に応じ、また、季節を肌で感じてもらえるような外出支援を行っている。家族の協力を得てお墓参りや法事にも行っている。	
			(外部評価) 散歩コースにある神社への参拝を楽しみにしている利用者も多く、天気や状況に合わせて出掛けている。ショッピングセンターで買い物をしたり、交流センターで地域の方と触れ合ったりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物に出た時に所持している。お金で支払えるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 毎年、年賀状を出す為の支援を行っている。また、電話で会話できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) フローア内に入居者の方が作ったその季節に合った物や花等を飾り、季節感のある空間づくりを行っている。 室温、温度調整を行い快適な状態で過ごして頂いている。	
			(外部評価) リビングは広くゆったりとしている。窓から中庭が眺められ開放感があり各自好きな場所で寛いだり、職員と一緒に季節の飾りを作成したりと思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) フローア内には椅子やソファを置き、個々の好きな所で過ごしたり、仲の良い利用者の方同士で過ごして頂けるよう工夫している。エレベーター前に長椅子を置き思い思いに過ごされている方もいる。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族の写真を飾ったり、馴染みの物、使い慣れた家具を持ってきて頂いている。	
			(外部評価) 居室は使い慣れた物が持ち込まれ、利用者が使いやすいように配置されている。また、お気に入りの飾りが飾り付けられ過ごしやすい居室づくりがされている。大きめのクローゼットとタンスが備え付けられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 段差なく手すりを設置し、安全な生活空間を確保している。各居室、トイレに表札を設置している。また、利用者にとって「どうすれば本人の力で出来るか」を追求し、状況に合わせて環境整備に努めている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871200329
法人名	社会福祉法人 亀天会
事業所名	グループホーム鶴翠
所在地	愛媛県西条市大野284番地2
自己評価作成日	平成 22年 11月 3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者1人1人のケアについてユニット会等で話し合い、ケアの質の向上を図っている。
入居者の方の思いに寄り添いながら、生活支援を行っている。
ご近所へホーム誌を配布したり、イベント案内を行う事で、地域の方と入居者の方が日常的に交流ができる機会を設けている。
地域の方にもボランティアに来て頂いており、今後も地域のボランティアの幅を広げていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者や職員は、利用者を人生の先輩として尊敬し、穏やかに寄り添うことを基本姿勢として支援に取り組んでいる。常に問題意識を持ち、最善の方法を全職員で模索しながら日々のケアを行っている。同法人には多くの施設や事業所があり、特に同敷地内にあるケアハウスや隣接する同法人施設とは連携を密にとれる体制が築かれており、地域との交流や地域貢献も行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム鶴翠

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)
氏名 佐伯 敏子

評価完了日 平成 22 年 11月 3日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 事業所の理念は全職員が共有できるよう入職時オリエンテーションや職員会などで具体的に伝え、個人個人のケアの実践に努めている。</p> <p>(外部評価) 職員は機会あるごとに理念を実践するために振り返りを行い、常に利用者本位に考え問題意識を持ちながら日々のケアに取り組んでいる。また、管理者は職員が利用者の側でより良いケアが行えるよう助言等を行っている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 散歩等の外出時には近所の方とあいさつや会話を行っている。スーパーへ買い物に出かけたり、小学校や地域交流センターへ行き、地域の人と交流を図っている。ホーム誌や行事の案内を近所へ配布し、日常的に交流が図れるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 日常的な散歩や買い物等の外出、小学校との交流や地域資源の活用は継続して行われている。また、近隣住民へホーム誌を持参し、顔を合わせて話す機会を作る等、ホームの事をより身近に感じてもらおうと取り組んでいる。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域運営推進会議を開催し、地域の方々に情報発信をしている。民生委員の方に出席してもらい、認知症の方への理解や支援の方法を伝えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2カ月に1度地域運営推進会議を開催し報告や話し合いをおこなっている。入居者の方の参加もあり意見を聞きサービスの向上に向けて取り組んでいる。	
			(外部評価) 当初はホーム側からの報告が主となっていたが、参加者にホームのことを理解してもらえるように議題や内容を工夫している。回を重ねるごとに意見交換が活発になっている。	従来からの参加者に加え、議題や内容に応じた参加者を多方面から募り、多角的な意見をもらい今以上に活発な意見交換の場となるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 地域運営推進会議にて報告し協力関係を築いている。必要時は関係機関に行き担当者と話をしている。	
			(外部評価) 地域包括支援センターの職員には、毎回運営推進会議に参加してもらい意見交換や情報交換をする等、連携は密に行っている。介護保険課にも随時出向き、情報交換や助言をもらう等のよい関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ユニット会、職員会等で全職員が身体拘束について話し合い、身体拘束をしないケアを実践している。	
			(外部評価) 職員は、ユニット会や勉強会で身体拘束について学びよく理解している。日々の支援の中で言葉使いも含め、気がついたことは職員同士で話し合っている。玄関の施錠については、交通量の多い道路に面しているため家族の意向も踏まえ、職員で話し合った結果、安全を優先し施錠している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ユニット会、職員会等で全職員が虐待について話し合いをおこなっている。日常業務の中で虐待が見過ごされる事のないよう注意を払い防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 1階の入居者の方で成年後見人制度を利用されている方がいる。経過は全職員が把握し制度について勉強し理解を深めている。新入職員にも資料で説明し理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分な説明と話し合いをおこない疑問点がないようにしている。退去時にはその後の事も視野にいれご家族に不安がないよう話し合いをおこない対応に努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 地域運営推進会議にて意見交換ができる機会を設けている。面会時には居室や相談室にて意見を聞かせて頂いている。意見箱の設置をしたり、介護相談員の訪問を定期的を受け、入居者の方の要望や意見を聞かせて頂くように努めている。 (外部評価) 毎月介護相談員を受け入れ、意見交換を行っている。また、家族に日常の生活の様子が分かる便りを毎月届けている。家族の面会時には必ず声かけし、話しを聞くようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ユニット会や職員会等と、気づいた時には相談室等で意見や提案を聞く機会を設けている。 (外部評価) 管理者は話しやすい環境を作ることを心がけ、職員と色々な話をするようにしている。ユニット会や職員会でも意見や提案を言う機会があり、新人職員の提案が実現した例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員個々の努力等を把握している。各自が向上心ややりがいをもって働けるよう、役割や担当を決め職場環境の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 個別能力や介護経験の期間などを考慮し研修している。ホーム内での勉強会や外部研修参加の機会を設けている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 勉強会や他事業所との交流の機会を設けネットワークづくりや、サービスの質の向上が図れるように努めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面接にて生活状況を把握し、不安、要望を聞き関係づくりに努めている。また、言葉にならない訴えも把握できるように表情を汲み取るよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面接にて生活状況を把握している。ご家族の困っている事、不安や要望、意見を聞きとり、信頼関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 状況や状態を把握し何が必要とされている支援かを考え対応に努めている。「その時」必要と判断されたサービスへは、ケアマネージャーや他事業所の相談員の方と連携を図り対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 昔から知っている知恵を教えていただくことがある。職員は介護する側という一方的な立場に立たず、お互いが協働しながら和やかな生活ができるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 入居者の日々の様子を随時家族に伝え情報の共有に努めている。家族の思いを聞き取り、本人を支えていく為の協力関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域で暮らす知人や友人等の訪問があり、継続的な交流が保てるように働きかけをしている。本人の希望に忠じて、家族の協力を得ながらお墓参りや美容室などへの外出ができるように支援に努めている。 (外部評価) 家族と一緒に美容室や法事に出掛けたり、正月等に外泊できるように支援している。利用者が生活していた地域の行事に参加する等、利用者が今まで培ってきた馴染みの人や場との関係継続ができるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 本人の性格も考慮しながらひとりひとりが孤立せず、関わり合い、支え合えるような生活が送れるように支援に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 可能な限り、情報提供を行い、相談や支援に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 声かけや会話の中で、ご本人にとって何が必要なのか、何が望みなのかを考え聞き取り、思いや意向を把握するよう努めている。 (外部評価) 職員はゆったりと利用者向き合いながら得た情報から、利用者の思いや意向を把握するよう努めている。得た情報は申し送りやユニット会等で話し合い職員全員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 生活歴等を本人、家族の方に聞き取り、日々の生活に活かしている。入居前にサービスの利用がある場合は、サービス利用時の情報を収集している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 共に生活する中で、一人一人の変化に気づき、生活リズムを把握する事で、その全体の把握に努めている。申し送りや日々の記録を活用し総合的な把握をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月のユニット会で日々の生活の中での関わりや感じたこと、課題になっている事を話し合いそれぞれの意見やアイデアを出し合っている。話し合いの内容は、家族と情報交換し介護計画に反映させている。	
			(外部評価) 利用者の意向を日々の関わりの中から汲み取り、家族の意見を取り入れながら職員間で情報を共有し、検討を重ね介護計画を作成している。介護計画の見直しは6か月または、状態の変化に合わせて随時行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子は、個別生活記録へ記入している。申し送りノートを活用し、気づきや変化を職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 状態や状況の変化に応じて多機能性を発揮できるよう努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の行事や小学校・図書館等の利用をしている。地域運営推進会議へは、消防署の方にも来て頂き、安全な暮らしへの支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 協力医療機関の診察と本人・家族の要望に応じて適切 な医療を受けられるように支援している。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医を受診してお り、家族に受診の付き添いをしてもらうこともある。 その際には経過を記した文書を持参してもらって いる。協力医療機関からの往診もあり利用者の健康管理 には、十分配慮されている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 看護師が職員として勤務している。日常の健康管理を 行い、相談出来るように支援している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 主治医とソーシャルワーカーの方と情報交換を行い、 家族と相談しながら、早期に退院できるよう努めてい る。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 重度化した時の対応は家族の方と話し合いをしてい る。</p> <p>(外部評価) 食事の摂取量や身体状況の段階的な変化や、それに 応じた方針や対応方法などが記載された「看取り指針」 が定められている。状況に応じて家族とも話し合いを 行うようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事故発生時のマニュアルを作成している。消防署員の指導のもと、人工呼吸の訓練等を行い実践力を身につけている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回、消防署の指示を得て、避難訓練を行い、避難経路の確認、消火器の使い方等の訓練を行っている。また、自治会から地区の自主防災組織表を頂いており、災害時は協力が得られるよう、地域運営推進会議の場で働きかけている。 (外部評価) 消防署の協力を得て、同敷地内のケアハウスと合同で夜間想定等の訓練を行い、隣接する同法人の施設からの応援体制も整備している。法人施設のデイルームを、災害時に地域に開放する等、運営推進会議でも話し合っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者1人1人の人格を尊重し接している。また、利用者に対して誇りやプライバシーを損ねない言葉で対応している。 (外部評価) 管理者や職員は、利用者は人生の先輩であることを常に意識してケアに努めている。排泄時等のプライバシーの確保や配慮、声かけの言葉使い等を職員同志で注意し合うよう徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者に合わせて声かけを行い、本人の思いが自然に出せるよう心がけている。意志表示が困難な方には、表情を汲み取りながら、思いや考えを自ら出せるよう働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その日、その時の利用者の気持ちを尊重した支援をしている。買い物や散歩等1人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 季節に合った服、衣類を用意している。美容については、家族や本人の要望を聞き、対応している。着替えは、利用者の意向を取り入れている。見守りや支援が必要な時は介助している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の方と一緒に片付けや食事の準備を行っている。また、利用者の方と同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるよう雰囲気づくりも大切にしている。	
			(外部評価) 利用者の好みや希望を聞き取りをし、法人施設の栄養士が献立を立てている。調理は無理のない範囲で利用者のできることを手伝ってもらっている。食事は会話を楽しみながら美味しく食べられるように和やかな雰囲気づくりがされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 1人1人の食事の摂取状況を毎日、暮らしの状況表に記録し、情報を共有している。一人ひとりの状態や力を把握して支援に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアの声かけを行い、見守り・一部介助等状況に応じ対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個人の排泄パターンが分かるようにチェック表を作成し、トイレ誘導を行う事で、トイレでの排泄を促している。	
			(外部評価) 排泄チェック表を活用し排泄リズムを把握したり、表情や動作で察知し声かけ、誘導を行っている。歩行不安定な利用者には職員が2人体制で支援する等安全面にも配慮し、日中は全員トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 個人の排泄状態をチェック表にて把握・確認をしながら水分補給や体操・散歩、家事活動等体を動かす機会を設け、自然排便ができるよう取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴したい日に入浴して頂いている。また、入浴を拒む利用者に対しては、声かけを行い、入る気分になられた時に入って頂いたり、足浴で対応している。	
			(外部評価) 希望により毎日入浴することも可能である。利用者同士仲よく入浴することもある。また、入浴を拒否する利用者には声かけやタイミングを見ながら、入浴が楽しみとなるよう支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。また、寝付けない時には、温かい飲み物を飲みながら談話を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の管理は看護師が行っている。薬の用法や用量は個別の薬表を確認し、理解している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴や本人の力を活かした役割が行えるよう支援している。又、季節行事や楽しみごとを取り入れ、気分転換の支援をしている。支援の後は、感謝の言葉を伝えたり、楽しかった気持ちや思いを共有している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者の気分や希望に応じ、また、季節を肌で感じてもらえるような外出支援を行っている。家族の協力を得てお墓参りや法事にも行っている。	
			(外部評価) 散歩コースにある神社への参拝を楽しみにしている利用者も多く、天気や状況に合わせて出掛けている。ショッピングセンターで買い物をしたり、交流センターで地域の方と触れ合ったりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物に出た時に所持している。お金で支払えるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 毎年、年賀状を出す為の支援を行っている。また、電話で会話できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) フローア内に入居者の方が作ったその季節に合った物や花等を飾り、季節感のある空間づくりを行っている。 室温、温度調整を行い快適な状態で過ごして頂いている。	
			(外部評価) リビングは広くゆったりとしている。窓から中庭が眺められ開放感があり各自好きな場所で寛いだり、職員と一緒に季節の飾りを作成したりと思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) フローア内には椅子やソファを置き、個々の好きな所で過ごしたり、仲の良い利用者の方同士で過ごして頂けるよう工夫している。事務所や相談室で思い思いに過ごされている方もいる。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族の写真を飾ったり、馴染みの物、使い慣れた家具を持ってきて頂いている。	
			(外部評価) 居室は使い慣れた物が持ち込まれ、利用者が使いやすいように配置されている。また、お気に入りの飾りが飾り付けられ過ごしやすい居室づくりがされている。大きめのクローゼットとタンスが備え付けられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 段差なく手すりを設置し、安全な生活空間を確保している。各居室、トイレに表札を設置している。また、利用者にとって「どうすれば本人の力で出来るか」を追求し、状況に合わせて環境整備に努めている。	